

講義年月日	2003年7月9日 (水)
講演者	加藤 好郎氏 (私立大学図書館協会国際図書館協力委員会前委員長)
テーマ	私立大学図書館協会における国際交流活動の現状と今後
講義内容	<p>1.日本の国際化 = 高度な学習社会の構築 来るべき知的産業時代に備える。 キーワード: グローバリゼーション / 異文化コミュニケーション</p> <p>2.大学の国際化 = 教育転換 ・国際人の予備軍を育てる。 ・職員自身も国際化を図る。</p> <p>3.大学図書館の国際化 = 専門職制の確立 教育支援の強化と研究支援の拡充が求められている。その対応策として、 ・大学院 (図書館情報学) の修了 ・現職図書館員の研修の充実 ・新しい研修形態 (デジタル・ライブラリアン講習会、パブリック・サービス研究分科会) ・教員との協同プロジェクト (慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌 (経済・社会・歴史) 解題)</p> <p>4.慶應義塾図書館の国際化 = 図書館員育成 [図書館] ・海外組織への加盟 (RLG) ・海外プロジェクトへの参画 (GIF) ・国際会議への参加 (PRDLA) [館員] ・海外の大学図書館と交換協定締結 (UCSD、トロント大学) ・各種総会、研究会、調査のために海外派遣 (CPSR総会参加、NCC総会参加、OCLCディレクター会議参加、アイルランドへ洋書の補修・修復・保存調査)</p> <p>5.私立大学図書館協会の国際化 = 図書館員の意識改革 1998年10月: 国際図書館協力委員会設置 (企業より資金援助あり) [活動内容] 資料搬送事業 (発展途上国へ資料寄贈) 国際シンポジウム開催 (2000年より年1回毎年実施) 海外集合研修 (2002年11月: 国際シンポジウムの内容を現地見学) 海外派遣研修 (イリノイ大学モートンソン・センター「アソシエイツ・プログラム」)</p> <p>6.今後の展開 資料搬送事業 単に資料寄贈に止まらず、インターネットを活用する。 国際シンポジウム開催 海外集合研修 継続実施 海外派遣研修 参加人数の増員 国際図書館協力委員会として、各事業の予算を増加し、新規事業を立ち上げるだけでなく、私立大学図書館協会としての枠組みを越え、私立大学間のコンソーシアムを形成し、リソースシェアリング等、ダイナミックに事業を展開する。</p>
感想	日本の「国際交流」は、異文化に触れることにより、刺激を受けるとい一方通行になりがちである。世界の最先端の動向を常にチェックしておくことは当然のことである。が、それを盲目的に受け入れたり、追従をする傾向がある。交流とは双方向のコミュニケーションである。そのためには、日本の大学図書館の現状、問題点をしっかり把握して、何を受け入れるべきか、そして世界に対して何を求めていくべきかを自己認識しておく必要がある。
配付物	私立大学図書館協会における国際交流活動の現状と今後」
備考	私立大学図書館協会国際図書館協力委員会 < http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/index.html > モートンソン・センター国際図書館プログラム < http://door.library.uiuc.edu/mortenson/programs.htm > 加藤好郎、保坂睦 慶應義塾図書館 (メディアセンター) における図書館員の国際交流」『大学図書館研究』、No.59、2000.9、p.40-49 Marcum, Deanna B.; 高木和子 (訳) 『米国における図書館リーダーシップ研修プログラム』『情報管理』、Vol.46、No.1、2003.4、p.9-16